

平成21年度地域密着型金融推進計画の取り組み状況について

当金庫は、経営理念に添った「地域密着型金融推進計画」を通じて、活力ある地域社会の実現を目指し、地域における企業支援・金融の円滑化等の推進を図ることとしております。

平成21年度も重点項目を策定し、地域密着型金融に向け取組み、機能強化を図ってまいりました。

I 平成21年度「地域密着型金融推進計画」の取組みの概要

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

2. 事業価値を見極める融資や中小企業に適した資金供給手法の徹底
3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

4. 会員への機能向上等に向けた取組み

5. その他

II 「地域密着型金融推進計画」の成果概要

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

- ①創業・新事業支援機能等の強化を図る。
 - ・地元福島大学との産学官連携協力を推し進めましたが、実績には至りませんでした。今後も産学官連携の拠点である「地域創造支援センター」の積極的活用に取り組めます。
 - ・福島県中小企業支援センターの利用促進にも取組み、1件の利用がありました。
- ②取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化を図る。
 - ・主要取引先28社を支援企業としてリストアップし、企業の特性や課題・問題点分析を通じて経営改善支援強化を行い、ランクアップおよびランクアップ維持を図りました。
 - ・福島県中小企業再生支援協議会を活用し、当該協議会主催のバンクミーティングへのサブ金融機関として参画しました。他金融機関との協調によるコベナント契約が1先の実績がありました。

2. 事業価値を見極める融資や中小企業に適した資金供給手法の徹底

- ①不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資の推進を図る。
 - ・管内商工会議所および商工会との提携商品である「商工会議所メンバーズローン」「商工会メンバーズローン」を前年に引き続き推進し、その結果6件16百万円の実績となりました。
 - ・「ほっとしんきん館5000・2000」を引続き積極推進し、その結果77件539百万円の実績となりました。そのうち、地域活性化に繋がる新規開業・創業者については3件(うち2件飲食店開業)24百万円の実績がありました。
- ②企業の将来性、技術力を的確に評価できる能力等、人材育成への取組み
 - ・外部団体が主催する「事業再生支援」「目利き力養成」関連の研修へ、本部主管部及び営業店融資担当者を積極的に派遣し、人材の育成・スキルの蓄積に取り組んでいます。「企業再生」部門では、合計11名「目利き養成」部門では、合計27名

3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

- ①若手経営者・後継者を対象とした「経営支援セミナー」を3回(延べ44名参加)開催しました。
- ②相談業務に対応するため、全店午後5時まで営業時間を延長し、延べ329件のご相談をお受けしました。
- ③年金相談会を6回開催し、85人のご相談をお受けしました。
- ④3店舗で原則毎月1回「サンデー相談会」を開催し、延べ68件のご相談をお受けしました。
- ⑤地元の商店街を元気付け、地域経済の活性化に寄与することを目的に「商店街応援キャンペーン」(平成21年9月～21年11月)として懸賞品付定期預金の販売に取り組む、懸賞品として地元商品券を採用しました。

4. 会員への機能向上等に向けた取組み

- ①「ディスクロージャー誌」「半期ディスクロージャー誌」の公表・活用を実施いたしました。
- ②地区別総代懇談会を全地区実施し、当金庫の情報開示を「ご意見・要望」をお伺いいたしました。
- ③会員からの意見・要望について「第5回アンケート」を実施しました。

5. その他

- ①地域活性化に繋がる多様なサービスの提供
 - ・環境保全の展開に役立てるためエコ定期積金の販売(平成21年10月～22年1月)を行い、その契約額の0.01%相当を(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフに寄付することをに組みました。定期積金契約額19億16百万円を獲得し、その0.01%相当する金額20万円を(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフに寄付を行いました。寄付金については、自然関係の図書等の購入に当てられ自然環境保護や教材図書資金として有効に活用されております。
- ②地域の中で環境問題への取組みとして、ISO活動を継続し、また地球温暖化防止のための「福島議定書」へ参加するなど、環境保全に努めました。